

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 4 月 16 日現在

機関番号：34304

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K16757

研究課題名(和文)江戸時代中期の女流文学者荒木田麗女の歴史物語・連歌作品研究

研究課題名(英文)A study of historical stories and renga works by Reijo Arakida, a female literary artist in the middle of the Edo period

研究代表者

雲岡 梓(KUMOOKA, Azusa)

京都産業大学・文化学部・准教授

研究者番号：30732888

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：江戸時代中期の女流文学者、荒木田麗女の歴史物語と連歌作品を中心に、未翻刻作品の翻刻と内容研究を行なった。麗女は歴史物語・擬古物語・随筆・和学・連歌等の複数分野において作品を残しているが、その調査・研究・テキスト整備は遅れており、著書や文学活動の内容は一般に知られていない。そこで本研究では、麗女の文学活動の中で特に有名な歴史物語と連歌に的を絞って、研究を進めてきた。その結果、麗女の代表作『月のゆくへ』『池の藻屑』の最善本の特定や、所在不明・未翻刻であった長編歴史物語『笠舎』の典拠、自注付き連歌集『鵲の草茎・竹の落葉』の作風等を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

荒木田麗女の歴史物語・連歌を中心に未翻刻作品の翻刻を進め、内容の分析を行なったことで、麗女の文学活動の内実を具体的に解明することができた。従来江戸文学といえば、男性作者による戯作文学、戯曲、俳諧が中心で、女性作家による物語や随筆などは類型的で個性に乏しく、読む価値がないものとして低く評価されてきたため、江戸女流文学の研究は遅滞し、江戸期に女性による文学が存在したことすら一般に認知されていない。しかし実際には江戸時代には麗女をはじめとしてさまざまな文学活動を行なった女性が複数存在し、女性が文学活動を行なう土壌が存在していたことを、麗女研究を通して明らかにできたことに本研究の意義があった。

研究成果の概要(英文)：Focusing on the historical stories and Renga works of Reijo Arakida, a female literary artist who represents the Edo period, I discovered materials, reprinted unreprinted works, and studied the contents. Reijo has left works in multiple fields such as historical stories, pseudo-old stories, essays, Japanese studies, and Renga, but the research, studies, and textbooks on her are delayed, and her books and literary activities are not generally known. The content of is not generally known. Therefore, in this study, I have focused on the historical stories and Renga that are especially famous in her literary activities. As a result, the best books of Reijo's masterpieces "Tsuki no Yuku" and "Ike no Mokuzu" were identified, the source of the feature-length historical story "Kasanoyadori" whose location was unknown and unreprinted, and the style of the self-ordered renga collection "Bamboo". The style of "Mozunokusaguki /Takenootiba" was clarified.

研究分野：近世文学

キーワード：歴史物語 連歌 笠舎 月のゆくへ 池の藻屑 こころの種 女流文学 伊勢

### 1. 研究開始当初の背景

荒木田麗女は歴史物語・擬古物語・随筆・和学(国学)・紀行文・和歌・連歌・俳諧など、約八十作四百巻もの作品を執筆した。そして歴史物語『池の藻屑』・『月の行方』を執筆して物語による日本通史を完成させた。本居宣長と文学論争を行ったことも有名である。執筆した作品数においても文学史上果たした役割においても、江戸時代を代表する女流文学者と言える。また、麗女は与謝野晶子・高群逸枝等の近代の女流文学者の活動にも影響を与えている。しかし、江戸時代の女流文学研究には遅れが生じ、麗女をはじめとする多くの女性作者たちの著作は未翻刻・未調査のままである。そのため **表1** に示したように、日本の女流文学史において江戸期は空白になっている。日本の女流文学は、平安時代を最盛期としてその後衰退し、明治時代に復活したと一般的には認識されている。

**表1 一般的に認識されている女流文学史**

	平安期	中世期	江戸期	明治期
主要文人	・紫式部 ・清少納言 ・和泉式部 ・赤染衛門 ・藤原道綱母 etc.	・式子内親王 ・後深草院二条 ・阿仏尼 ・建礼門院右京大夫	・加賀千代女	・与謝野晶子 ・樋口一葉 ・下田歌子 ・平塚らいてう ・野上弥生子 etc.

そこで麗女を中心に据えながら、他の女流作家へと視野を広げ、近世から現代に至るまでの女流文学の系譜を解明し、女性史の視点から江戸文学全体を新たな構図で捉え直すことを計画した。

### 2. 研究の目的

麗女の著作物のうち、歴史物語と連歌を中心に研究を行なった。

麗女は連歌が俳諧に地位を奪われて衰退する中、連歌への万葉語の導入や物語を踏まえる複雑な付合など、新たな詠風の模索を試みていた。このような特徴を持つ麗女連歌の研究を通して、近世中期の連歌文芸の実態を解明することができる。また、麗女は独自の見解と思想を持ち、大部の歴史物語を執筆して女性の視点から日本の歴史を評価し直し、語り継ごうとしていた。代表作の歴史物語『池の藻屑』・『月のゆくへ』は、『大鏡』・『今鏡』・『水鏡』・『増鏡』以来の歴史物語の系譜を引き継ぎ、和文による日本通史を完成させた作品として評価が高い。

以上のことから、歴史物語・連歌の中で未翻刻・未調査の作品を翻刻し、研究の基礎となるテキストの整備を行ない、内容の分析を行なうことを目的とした。

### 3. 研究の方法

#### (1) 歴史物語『笠舎』に関する研究

長編歴史物語『笠舎』を翻刻し、研究の基盤となるテキストの整備を行った。神武天皇から安徳天皇に至るまでの歴史を記述する長編歴史物語『笠舎』は、これまで散逸したと考えられていた。しかし、国立国会図書館、京都大学図書館、名古屋大学附属図書館に断簡が所蔵され、全体像の復元が可能である。

そこで、第一に本文を翻刻し、典拠に関する分析を加えて論文として公開した。

次に、整備したテキストをもとにして、長編歴史物語執筆の執筆動機・読者層・内容の特徴について分析を加えた。

## (2) 連歌文芸に関する研究

麗女の未翻刻の連歌資料『鴉の草茎・竹の落葉』『こころの種』『みなとの浪』を収集して翻刻を行い、内容と特色を解明した。

第一に、麗女が作成した『万葉集』の歌語辞典『こころの種』に引用される万葉歌を分析し、辞書作成を行なった際の底本がいかなるものであったのかを明らかにした。

第二に、麗女の連歌集『鴉の草茎・竹の落葉』『みなとの浪』『麗女独吟千句』等に見られる、「友のぞめき」、「かぶら姫歌」、「女曹司」、「恋のやっこ」、「垂髪」、「国栖」、「つゞしり」、「佐夫流子」などの万葉語彙を頻繁に用いるという麗女の連歌の特徴について考察した。

その結果、麗女は連歌の中に『万葉集』の歌語を用いるために、二冊の万葉歌語辞典、『こころの種』と『奈良の葉』を手引書として作成していた。連歌の上達を目的として『万葉集』に関心を持ち、国学に取り組んだという経緯が明らかになった。麗女は本居宣長と論争を行っていることから、国学者としての面も有することが判明している。連歌と国学という一見関連性の薄い分野が、麗女の連歌作品において密接に関連していたことがわかった。これによって、連歌と国学といった領域の垣根を越えて、近世期の諸文芸が連動している様子を明らかにする。

## 4. 研究成果

### (1) 歴史物語『笠舎』に関する研究

歴史物語『笠舎』全33巻中17巻までの翻刻を終え、神武天皇から仁明天皇までの歴史について、麗女がどのような資料をもとにして執筆したのかを解明した。また序文と跋文の内容の分析により、先行する歴史物語『大鏡』・『今鏡』・『水鏡』・『増鏡』に見られる、長寿の老人が実際の体験として歴史上の出来事を物語るという昔語りの形式を麗女が踏襲した上で、伊勢近辺に集中する読者に向けて、語りの舞台や語りに至るまでの経緯に変化を付けていたことを明らかにした。

### (2) 連歌文芸に関する研究

独吟連歌集『鴉の草茎・竹の落葉』の収載句に、自注として引歌や本説等が書き加えられていることに注目し、自注の分析を通して麗女の連歌の本歌・本説・付合の意図を分析した。とりわけ麗女が『源氏物語』・『伊勢物語』といった広く一般に連歌に引用される物語作品だけでなく、『宇津保物語』・『栄花物語』・『古事記』・『日本書紀』・『続日本記』・『方丈記』・『三代実録』を本説に用いていたことと、同様の傾向が他の近世連歌にも見られたことを明らかにしたことが成果である。このことから、近世期の連歌作者が中世連歌からの脱却を目指し、古典教養を深めることで新たな表現を生み出そうとしていた可能性が指摘できる。

また、万葉歌語辞典『こころの種』に引用されている万葉歌の句形を、『万葉集』寛永二十年版本・西本願寺本・神宮文庫本・類聚古集』・『詞林采葉抄』・『万葉拾穂抄』・『万葉代匠記』等、麗女が参照した可能性のある諸本の句形と比較することで、『こころの種』執筆に際して底本となったものが『万葉拾穂抄』であったことを明らかにした。

そして、本研究助成を受けて行なった研究の成果と、それまでに行なってきた研究の成果をあわせ、2017年には麗女の文学活動について網羅的に論じた著書、『荒木田麗女の研究』(和泉書院)を出版した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 71-1
2. 論文標題 荒木田麗女『笠舎』巻一・巻二の翻刻と典拠の考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文藝研究	6. 最初と最後の頁 23-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 71-2
2. 論文標題 荒木田麗女『笠舎』巻三～六の翻刻と典拠の考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文藝研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大山和哉・岡本聡・雲岡梓・鈴木淳・中嶋隆・復本一郎・藤江峰夫	4. 巻 96
2. 論文標題 『拳白集』評釈（一）巻六	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近世文芸 研究と評論	6. 最初と最後の頁 99-177
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山和哉・岡本聡・雲岡梓・鈴木淳・中嶋隆・復本一郎・藤江峰夫	4. 巻 97
2. 論文標題 『拳白集』評釈（二）巻七	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近世文芸 研究と評論	6. 最初と最後の頁 109-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松原尚志・雲岡梓	4. 巻 46
2. 論文標題 江戸時代の貝化石図譜『閑窓録』の研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 瑞浪市化石博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 57-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 16
2. 論文標題 荒木田麗女の歴史物語『笠舎』の全体像	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語論集 (北海道教育大学釧路校国語科教育研究会)	6. 最初と最後の頁 12 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 50
2. 論文標題 北海道教育大学附属図書館釧路館古典籍目録	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 釧路論集 (北海道教育大学釧路校研究紀要)	6. 最初と最後の頁 1 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 69巻1号
2. 論文標題 神宮文庫所蔵本『月の行衛』(中巻・下巻)の翻刻	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本文藝研究	6. 最初と最後の頁 17-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 65-4
2. 論文標題 散在する国学者とその文事	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 55
2. 論文標題 荒木田麗女の歴史物語『月の行方』と長門本『平家物語』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 語学文学	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 48
2. 論文標題 荒木田麗女『三の友』の翻刻	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 釧路論集(北海道教育大学釧路校研究紀要)	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福江良純、雲岡梓	4. 巻 6
2. 論文標題 翻刻 松本市立美術館所蔵 石井鶴三《スケッチブック》	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 信州大学附属図書館研究	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 236
2. 論文標題 伊勢の才媛荒木田麗女	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 瑞垣	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 68-2
2. 論文標題 荒木田麗女の歴史物語『月の行衛』（神宮文庫所蔵本）上巻の翻刻	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本文芸研究	6. 最初と最後の頁 19-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 72-1
2. 論文標題 荒木田麗女の歴史物語『笠舎』巻七・八の翻刻と典拠の考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文芸研究	6. 最初と最後の頁 31-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 72-2
2. 論文標題 荒木田麗女の歴史物語『笠舎』巻九・十の翻刻と典拠の考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文芸研究	6. 最初と最後の頁 35-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 70-1
2. 論文標題 荒木田麗女の歴史物語『笠舎』の序文と跋文について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 10-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山和哉・岡本聡・雲岡梓・鈴木淳・中嶋隆・復本一郎・藤江峰夫	4. 巻 98
2. 論文標題 『拳白集』評釈(三)巻八	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近世文芸 研究と評論	6. 最初と最後の頁 86-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山和哉・岡本聡・雲岡梓・鈴木淳・中嶋隆・復本一郎・藤江峰夫	4. 巻 99
2. 論文標題 『拳白集』評釈(四)巻九	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近世文芸 研究と評論	6. 最初と最後の頁 61-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 54
2. 論文標題 荒木田麗女の逸話の研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 伊勢郷土史草	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 雲岡梓	4. 巻 69-6
2. 論文標題 綿拔豊昭著『近世武家社会と連歌』（書評）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 58-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 雲岡梓
2. 発表標題 荒木田麗女『鶉の草ぐき・竹の落葉』について
3. 学会等名 俳文学会東京研究例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 雲岡梓
2. 発表標題 蝦夷・北海道にまつわる詩歌 蝦夷を詠む和歌とアイヌ歌人の短歌
3. 学会等名 第135回全国大学国語教育学会東京ウォーターフロント大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 雲岡梓
2. 発表標題 釧路校図書館所蔵『源氏物語湖月抄』（池内尊書入本）について
3. 学会等名 北海道教育大学釧路校国語科教育研究会 3月特別例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 雲岡梓
2. 発表標題 「蝦夷・北海道にまつわる詩歌」
3. 学会等名 北海道教育大学釧路校国語科教育研究会 7月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 雲岡梓
2. 発表標題 北海道教育大学附属図書館釧路館の古典籍について
3. 学会等名 北海道教育大学釧路校国語科教育研究会 5月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 雲岡梓
2. 発表標題 荒木田麗女の『万葉集』歌語辞典『こころの種』について
3. 学会等名 京都近世小説研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 雲岡梓
2. 発表標題 荒木田麗女と宣長の論争
3. 学会等名 宣長十講
4. 発表年 2020年

## 〔図書〕 計4件

1. 著者名 廣木一人、松本麻子、石澤一志、稲葉有祐、梅田径、岡崎真紀子、尾崎千佳、嘉村雅江、木下優、久保木秀夫、雲岡梓、黒岩淳他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古典ライブラリー	5. 総ページ数 700
3. 書名 連歌大観 3巻	

1. 著者名 雲岡梓	4. 発行年 2017年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 386
3. 書名 『荒木田麗女の研究』	

1. 著者名 廣木一人、他25名、雲岡梓	4. 発行年 2017年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 594
3. 書名 『日本詩歌への新視点 廣木一人教授退職記念論集 』	

1. 著者名 玉井康之他、他55名、雲岡梓（釧路校教師教育研究会）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 北樹出版	5. 総ページ数 268
3. 書名 『子どもの総合的な能力の育成と生きる力』	

## 〔産業財産権〕

〔その他〕

- ・「荒木田麗女『笠舎』巻一・巻二の翻刻と典拠の考察」<http://hdl.handle.net/10236/00028330>
- ・「荒木田麗女『笠舎』巻三～六の翻刻と典拠の考察」<http://hdl.handle.net/10236/00029011>
- ・「荒木田麗女の歴史物語『笠舎』の全体像」<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/10449>
- ・「北海道教育大学附属図書館釧路館古典籍目録」<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/10476>
- ・「荒木田麗女の歴史物語『笠舎』巻七・八の翻刻と典拠の考察」<http://hdl.handle.net/10236/00029143>
- ・「荒木田麗女の歴史物語『月の行方』と長門本『平家物語』」<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/8085>
- ・「荒木田麗女『三の友』の翻刻」<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/8219>
- ・「荒木田麗女の歴史物語『月の行衛』（神宮文庫所蔵本）上巻の翻刻」<http://hdl.handle.net/10236/00026251>
- ・「神宮文庫所蔵本『月の行衛』（中巻・下巻）の翻刻」<http://hdl.handle.net/10236/00026083>
- ・「荒木田麗女の歴史物語『笠舎』巻九・十の翻刻と典拠の考察」<http://hdl.handle.net/10236/00029440>
- ・「翻刻 松本市立美術館所蔵 石井鶴三《スケッチブック》」<http://hdl.handle.net/10091/00019491>

6. 研究組織

No.	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関